

## 学則変更の趣旨等を記載した書類

### ア 学則変更（収容定員変更）の内容

入学定員を95名から98名に変更

収容定員を637名から640名に変更

（第2年次編入学定員（10名）の変更は無い。）

### イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

我が国では、医学部出身の基礎医学研究者が減少傾向にあり、これを放置することによる将来の国際競争力の低下や医学教育レベルの低下が危惧されている。大阪大学では、他大学に先駆けて、学生を一定期間基礎医学系教室や社会医学系教室で研究に専念させる教育プログラム「基礎医学講座配属」を導入するなど、基礎医学研究者の養成に力を注いできた。

また、医学科のほかにも、生命機能研究科、微生物病研究所、免疫学フロンティア研究センターなど、附属の研究施設が充実し、学生への指導体制が整っている。そこで、我が国のかかえる上記課題に対応するため、研究医枠3名の定員を増加させ、早期から基礎医学研究を体験させ、学部・大学院を連携させた特別教育プログラム（MD 研究者育成プログラム）の参加者を確保し、医師養成だけでなく、世界をリードする研究能力と国際的視野を兼ね備えた医学研究者養成を目指す。

### ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

#### (ア) 教育課程の変更内容について

収容定員変更に伴う既設科目の変更は行わず、卒業要件も変更しない。MD研究者育成プログラムの履修科目も変更は行わないため、変更前と同等の教育課程が担保される。

#### (イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容について

講義に関して、指導方法および実施方法に変更は行わないため、変更前と同等の教育方法及び履修指導方法が担保される。

#### (ウ) 教員組織の変更内容について

教員組織の変更は行わないため、変更前と同等の教員組織が担保される。

#### (エ) 大学全体の施設・設備の変更内容について

大学全体の施設・設備の変更は行わないため、変更前と同等の施設・設備が担保される。

### エ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

#### 【校地ごとの収容定員数を定めていない理由】

各校地（吹田・豊中）で教育研究を行うための十分な施設・設備が確保されているため、校地ごとの収容定員は定めていない。

**【適切な基幹教員の配置状況】**

別紙「2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況」参照。医学部の専門教育は吹田地区で行うため、基幹教員の多くは吹田地区に所属している。

**【教員の移動への配慮】**

校地間の移動に利用できる無料の学内バスを運行している。

**【学生への配慮】**

1年次～2年次の夏学期までは豊中地区で教養教育を中心に実施し、2年次の秋学期以降は吹田地区で専門教育を実施する。校地間の移動が少なくなるように年次進行に合わせたカリキュラムとしている。校地間の移動に利用できる無料の学内バスを運行している。

**【施設設備等の配慮】**

各校地で学生が利用できる講義室、演習室、実験実習室、図書館、学生自習室等を設置している。

令和8年度  
医学部入学定員増員計画

阪大統括経第11号  
令和7年8月20日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人大阪大学  
学長 熊ノ郷 淳

「地域の医師確保等の観点からの令和8年度医学部入学定員の増加について（令和7年8月5日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	国立大学法人大阪大学統括理事オフィス経営デザインチームマネージャー 藤森 隆史
	TEL	06-6879-7158（直通）
	E-mail	toukatsu-edrs@office.osaka-u.ac.jp

大学名	国公立
大阪大学	国立

1. 現在（令和7年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
98	10	0	642



(収容定員計算用)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	計
(ア) 入学定員	100	100	100	97	97	98	592
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	107	107	98	642

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和8年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	10	0	620



(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	105	105	105	105	105	95	620
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和8年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
98	10	0	623



(収容定員計算用)

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	計
(ア) 入学定員	98	95	95	95	95	95	573
(イ) 2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	108	105	105	105	105	95	623
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数	3
	↑
(内訳)	
(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	0
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	3
計	3

## 1 基礎医学及び社会医学の研究医養成のための入学定員増を実施する趣旨

我が国では、医学部出身の基礎医学研究者が減少傾向にあり、これを放置することによる将来の国際競争力の低下や医学教育レベルの低下が危惧されている。

大阪大学では、他大学に先駆けて、学生を一定期間基礎医学系教室や社会医学系教室で研究に専念させる教育プログラム「基礎医学講座配属」を導入するなど、基礎医学研究者の養成に力を注いできた。

また、医学科のほかにも、生命機能研究科、微生物病研究所、免疫学フロンティア研究センター、ヒューマン・メタバース疾患研究拠点など、関連する研究施設が充実し、学生への指導体制が整っている。

そこで、我が国のかかえる上記課題に対応するため、研究医枠3名の定員増を含めた医学科学生に対し、早期から基礎医学研究に参加する特別教育プログラムを実施することで、世界をリードする研究能力と国際的視野を兼ね備えた医学研究者を養成することを目指す。

## 2 研究医養成拠点として相応しい実績

<p>継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績</p>	<p>卒業生の基礎医学及び社会医学分野への直近の過去2年間（2023～2024年度）の進学実績の平均は8.5人/年で、増員数（2人）の4.3倍であり、また2025年度の進学実績は14名で、増員数（3人）の4.7倍で継続的に大学院生を輩出している。なお、令和8年度の要望数（3人）に対しては3.4倍である。</p>
<p>★送付している別添様式1に記入し、資料として添付すること。</p>	
<p>継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績</p>	<p>直近の過去3年間（2022～2024年度）のMD（医師免許取得者）の大学院博士課程修了者のうち基礎医学及び社会医学分野に就職した者の数の平均が16.3人/年で増員数（2人）の8.2倍であり、継続的に研究医を輩出している。なお、令和7年度の要望数（3人）に対しては5.4倍である。</p>
<p>★送付している別添様式1に記入し、資料として添付すること。</p>	
<p>大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等</p>	<p>プログラム名称：卓越大学院プログラム事業費 事業名称：生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養 補助金名：研究拠点形成費等補助金 採択年度：2018年度（2018～2024年度が事業期間）</p>
<p>他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績</p>	<p>科学研究費採択率は、2024年度は44.73%（全国平均は27.3%）となっており、高い採択率となっている。2024年度の採択数は170件である。 2020年度受審した、医学教育分野別評価において「大阪大学医学部医学科ではMD研究者育成プログラムに多くの学生が参加していることは高く評価できる。」との評価を受けた。なお、「高く評価できる」という表現は、我が国において1～2校程度にしか付与されない表現である。</p>

3 研究医養成に関する取組状況①

(1) 設定する学部・大学院教育を一貫して見通した特別コースの概要及び履修者の確保状況

コース名	①MD研究者育成プログラム、②学生研究員コース
特別コースの概要 (※)	①従来の医学部のカリキュラムはそのまま受講し、その時間外を利用して基礎医学研究を実践する特別コース「MD研究者育成プログラム」を2010年度より実施してきた。 ②2021年度、MD研究者育成プログラムを見直すと、プログラム登録学生数の減少を認めた。学内を調査すると、研究に従事する学生が減少したわけではなく、プログラムに登録せず自由な研究スタイルを好む学生が増えていることが判明した。そこで、そのような学生を対象とした特別コース「学生研究員コース」を2022年度よりあらたに導入して、学生研究の促進に努めている。
特別コースの履修者の確保状況	特別コース「MD研究者育成プログラム」については、選考時期は2015年度まで学部2年次及び学部3年次終了時の2回、2016年度以降は、学部2年次後期開始時期と学部3年次終了時の2回。特別コース「学生研究員コース」は2022年度より学部1年次後期より登録を開始した。

※本欄には特別コースの概要を簡潔に記載し、その具体的な内容(学年進行、履修内容等)がわかる資料を別添様式1のフローチャートを食め、添付すること(★)  
※特別コース開始後、これまでにその内容に変更があった場合又は今後変更する予定がある場合には、その旨を記載するとともに、変更前と変更後の両方の資料を添付すること

(2) 複数大学の連携によるコンソーシアムの形成

連携先大学	(連携A) 東京大学、京都大学、名古屋大学 (連携B) 愛媛大学、岡山大学、徳島大学、奈良県立医科大学、三重大学、山口大学
連携先大学との取組の概要(※)	(連携Aについて) 医学部生向けに研究志向を高めるMD研究者を育成するプログラムを推進し、その研究成果を全国大学間リトリート等において全国の医学部と定期的に共有するだけでなく、2015年の第120回日本解剖学会総会・全国学術集会・第92回日本生理学会合同大会、2017年度生命科学系学会合同年次大会、2019年度日本医学会総会で研究医養成のシンポジウムや合同フォーラムを開催し、全国の研究者や医師に研究医養成プログラムを広く知ってもらうための活動を行ってきた。 四大学による共同事業は2020年度で一旦終了となったが、2021年度に東京大学MD研究者育成プログラム室からの打診を受けて、新規共同プロジェクト「基礎医学研究者養成イニシアチブ」を同年度1月より運用開始した。本共同プロジェクトにおいては、従来のリトリートなどの研究発表・交流の機会だけでなく、四大学間でのラボツアーや研究研修を積極的に推進することで、連携校との交流のハードルを下げ、優秀な学生にこれまで以上の多様な機会や情報を提供することを目的とした。ラボツアーは2022年度まで対応したが、2023年度からは研究従事を目的とした大学間派遣のための調整を開始し、2024年度より大阪大学への受け入れを開始している。 (連携Bについて) 以前より西日本において医学系研究を行う学生の研鑽・交流の場として、各大学の教員有志により立ち上げられた西日本医学生学術フォーラムに本学学生・教員ともに参加を継続していたが、2019年度からは規約制定など組織化し、1年に1回の発表会を継続している。

※過去に入学生定員増を実施した大学においては、過去の取組と今後の取組の両者について記載すること

連携大学との役割分担	(連携Aについて) 4大学の担当教員はオンライン打合せを定期的に行い、連携の在り方について協議を行っている。連携の在り方は研究室見学型のラボツアーから研究従事型の大学間学生派遣に移行し、派遣のための事務手続きはすでに整備した。現在は、学生が派遣を希望すれば随時派遣している。 (連携Bについて) 毎年主幹校を決めて、主幹校の采配によりそれぞれのスタイルで西日本医学生学術フォーラムが開催され、学生および担当教員が自由に参加して交流を深めている。
------------	---

(3) 研究医としての従事を条件とする奨学金制度の概要及び奨学金の給付等の状況

奨学金制度名	①MD研究者育成プログラム奨学金 ②岸本国際交流奨学金
奨学金の種別	① 給付型 ② 給付型
貸与時期・金額	①各年度 10万円 ②各教育研究活動期間 5~20万円
従事要件	①原則としてMD研究者育成プログラムに参加する3年次以上の学生であって、卒業後、大学院(基礎医学系教室)に進学し、将来、研究医となることを希望する者。 ② (1) MD研究者育成プログラムに参加する学生であること。 (2) 教育研究活動であること。

奨学金制度の概要 (※)	①2020年度から研究医としての従事要件を課すMD研究者育成プログラム奨学金を制定し、MD研究者育成プログラム参加者から各学年2名までの者に年額10万円を支給している。 ②2016年度以降は、岸本国際交流奨学金（寄附金）により、MD研究者育成プログラム参加学生向けの教育研究活動（学会発表、海外留学、リトリートへの参加）に対する支援事業を実施している。
-----------------	---

※本欄には奨学金制度の概要を簡潔に記載し、その具体的な内容（対象者、金額等）がわかる資料を添付すること

※奨学金制度開始後、これまでにその内容に変更があった場合又は今後変更する予定がある場合には、その旨を記載するとともに、変更前と変更後の両方の資料を添付すること

奨学金の給付等の状況	①2024年度は計1名に支給した。 ②2024年度は計9名に支給した。
------------	--

#### (4) キャリア支援

研究医としてのキャリア支援に関する取組	卒前は3年次基礎講座配属や5年次研究室配属など必修科目や、選択制のMD研究者育成プログラムにて研究指導を行う。 卒後はストレートな大学院進学から、初期研修を経過しての大学院進学、専門研修を経過しての大学院進学など様々な選択肢が可能で、卒前と卒後のシームレスな連携により円滑なキャリア支援の体制が確立されている。
---------------------	--

#### (5) 海外での研究・研修の機会提供の取組及び医学部学生の採用状況

海外での研究・研修の機会提供の取組	MD研究者育成プログラム、3年次基礎配属、5年次研究室配属、6年次選択実習等において、海外での研修・実習の機会を提供している。
-------------------	---

医学部学生の採用状況	海外での研修の機会（1か月以上） 2017年度 MD研究者育成プログラム履修生6名、3年次基礎配属2名、5年次選択実習2名、その他3名 2018年度 MD研究者育成プログラム履修生2名、5年次選択実習8名、その他1名 2019年度 3年次基礎配属4名、5年次選択実習5名 2020年度 6年次選択実習1名（コロナ禍により減少） 2021年度 5年次選択実習1名（コロナ禍により減少） 2022年度 6年次選択実習3名（コロナ禍により減少） 2023年度 5年次選択実習1名、6年次選択実習1名（コロナ等の影響により減少） 2024年度 5年次選択実習1名、6年次選択実習4名
------------	---

4 研究医養成に関する取組状況②

専用の入試枠の設定による選抜の実施の有無	無 専用入試枠の設定による選抜の実施は行っていない。入学後選抜を行う。また選抜の変更予定は無い。
実績「有」の場合選抜方式	-
資料	-
実績「無」の場合(※)	-
学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置(※)	岸本国際交流奨学金により、学生による学会発表および国内外での研究留学の旅費を補助している。 大学が主催する学部学生対象の自主研究費奨励事業より、研究費としての予算措置が講じられている。

※予算措置の具体的な内容について記載し、必要に応じて資料を添付すること

学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築	
形式	源流である基礎講座配属に準じた対応を行っている。すなわち、学生は教室に配属されると屋根瓦形式で直接の指導を大学院生あるいは助教から受け、総合的な指導を教授より受ける。学会発表および論文発表は学生の研究進捗状況に合わせて指導教授が適宜設定を行う。
具体的な内容(※)	岸本国際交流奨学金により、学生による学会発表および国内外での研究留学の旅費を補助している。特定の基礎医学教室または研究施設に所属し、研究手法、論理的思考能力、情報収集能力、プレゼンテーションやディスカッション能力など、研究者としての基本的な能力を養う。また、医学英語教育を重視し、学会発表や海外留学も積極的に奨励しサポートしている。定期的に研究発表を実施し、6年次には修士発表を行う。また、卒業までに研究成果を論文として発表することを目指している。 単位の修得状況の確認として、毎年度終了時に教育担当副研究科長、教育センター長、学部及び大学院教務委員長による学生面談を行い、履修状況を確認している。 またプログラム修了の確認としては、卒業前に教育センターから指導教員に履修状況を確認している。このような厳格なプログラム管理が大阪大学における伝統であり強みであると自負している。 一方、自由な研究スタイルを望む学生への対応として、2022年度より学生研究員コースを導入している。

※具体的な発表機会の内容（どのような場・形式での発表機会が確保されているか等）及び指導体制（教員配置等）について記載し、必要に応じて資料を添付すること

研究医となった際の常勤ポストの確保の取組	基礎系医学研究者を対象とした常勤教育職（特別枠）を設定し採用している。
卒業生の状況	卒業後の研究継続を奨励している。大阪大学MD研究者育成研修コースは定員2名に対して、卒業生は2022年度1名、2023年度2名、2024年度2名が参加している。このうち、2022年度1名は研修中に筆頭著者の論文を発表した。 その他、卒業生の半数以上が本学の大学院に毎年進学している。選択制のMD研究者育成プログラムのみならず、必修制の4年次基礎講座配属などの成果と考えている。
臨床研修により研究活動が中断されることのないようするための配慮	大阪大学医学部附属病院で臨床研修を受けており、基礎系大学院への進学を希望する者の大学院博士課程への社会人入学を2021年度より認めている。 その他、2022年度より、附属病院の研修プログラムに「大阪大学MD研究者育成研修コース」を2名の枠で追加導入し、2年間の臨床研修の中でおよそ半年の期間を研究に専念できるようにしている。
その他研究医に必須の能力を養成する上で必要不可欠と考えられる取組	3年次授業科目（基礎医学講座配属）及び6年次授業科目（臨床医学特論）で研究倫理教育を実施している。2019年度より3年生に対し、基礎医学講座配属開始までに研究倫理に関するe-learning講義を受講するよう義務付けた。 また、学部2年～4年の医学英語の授業において、研究発表及び論文作成に向けた講義・演習を実施している。

## 5 過去に当該枠組みにより入学定員増を実施した場合の現在の状況

大学が講ずることとされた措置の履行状況 (※)	研究者育成のための取り組み、それを支援する奨学金などの種々の資源提供は確実に行われている。特に、かつてMD研究者育成プログラムは文部科学省からの予算措置を受けていたが、措置がなくなって以降も必要な資源を独自に確保、実装化することで研究者育成のための取り組みを継続している。
-------------------------	--

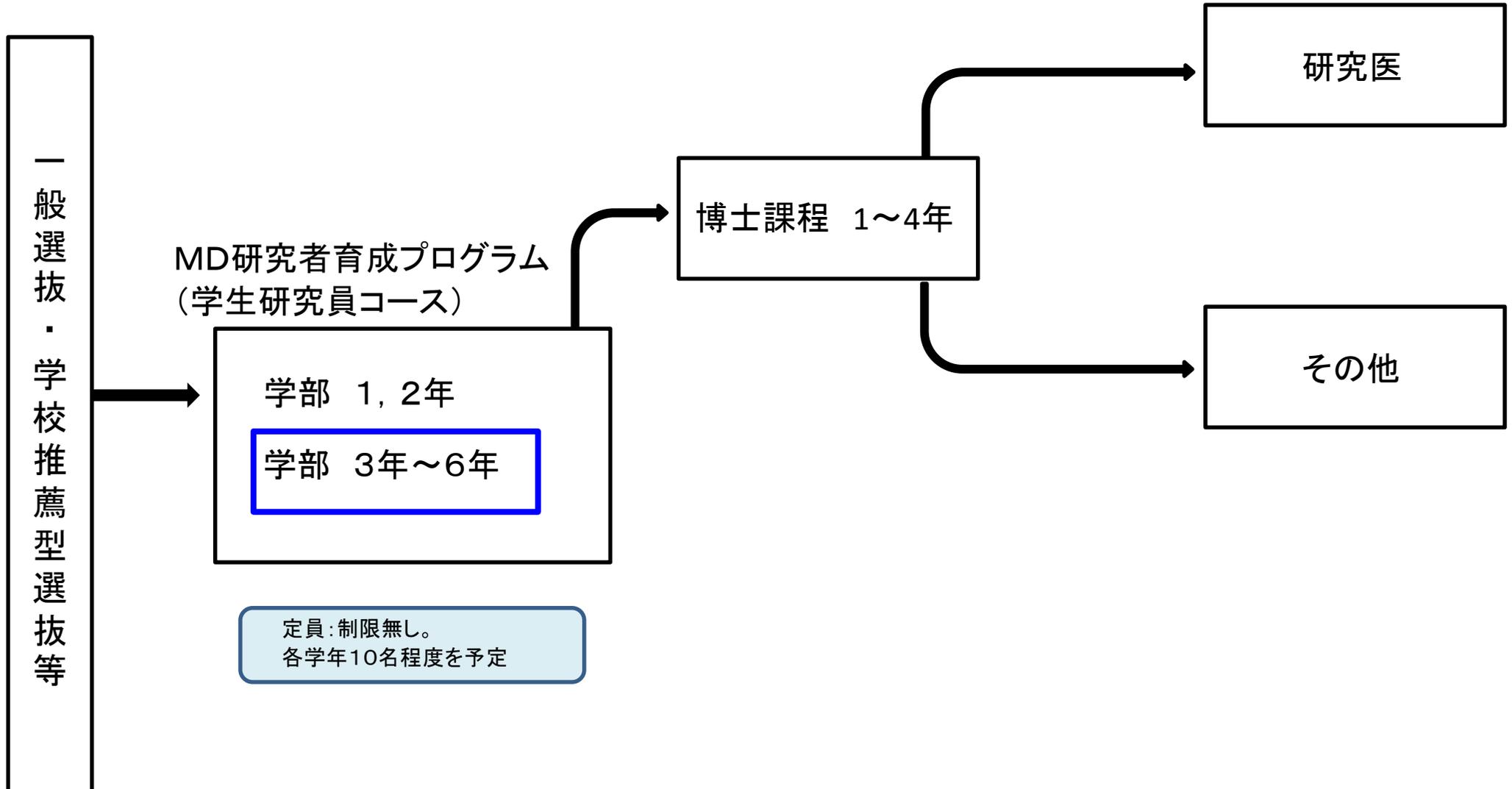
※過去に入学定員増を実施した際の要件、当時の増員計画等を参照し、大学が講ずることとされた措置の全てが履行されていることを確認の上、その状況を記載すること

研究医養成に関する取組の有効性の確認 (※)	第一の指標は基礎系大学院進学率である。プログラム修了生から数名の大学院進学を確認している。 第二の指標は基礎医学系教員としての雇用であるが、プログラム開始が2011年であり、1期生1名の雇用を確認する状況である。
------------------------	---

※過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともに記載すること

R8研究医枠定員数:3名  
増員開始年度:2010(H22)  
R8増員希望数:3名

※青枠は奨学金給付がある期間



# 実績

	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
特別コースの履修者数 ※当該年度の新規履修者	—	12	10	10	19	14	15	16	8	7	6	4	4	8	14	14

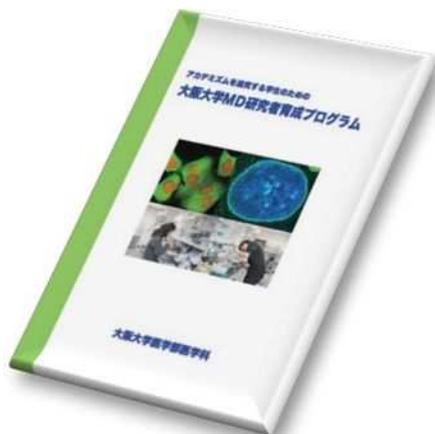
(入学年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
基礎・社会医学系大学院 進学者数【A】 ※括弧内は自大学出身者	46 (4)	54 (4)	47 (1)	39 (2)	50 (4)	44 (2)	52 (6)	54 (11)	46 (4)	61 (7)	49 (7)	59 (9)	46 (12)	35 (8)	38 (6)	47 (11)	57 (14)
臨床系大学院進学者数 【B】 ※括弧内は自大学出身者	111 (44)	124 (48)	138 (56)	126 (59)	143 (61)	147 (51)	139 (59)	128 (43)	128 (53)	129 (52)	132 (53)	139 (62)	140 (48)	138 (53)	148 (64)	130 (49)	109 (45)

(博士課程修了年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
【A】の修了者数	6	6	3	11	4	2	3	12	10	7	9	15	9	13	15	14
【B】のうち、基礎・社会学系 の論文(又は共著論文)を執 筆した修了者数	44	49	31	71	106	76	53	45	71	91	50	55	85	49	61	84
合計	50	55	34	82	110	78	56	57	81	98	59	70	94	62	76	98

(博士課程修了年度)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
基礎・社会医学研究分野の 就職者数	2	3	4	6	1	0	1	9	3	5	13	19	9	14	27	8
臨床系のうち、基礎・社会医学 研究に従事する者等の数	15	5	6	9	2	5	3	2	7	8	7	9	8	7	6	7
合計	17	8	10	15	3	5	4	11	10	13	20	28	17	21	33	15



# 大阪大学医学部 MD研究者育成プログラム 令和7年度 概要



## 大阪大学MD研究者育成プログラム・担当スタッフ

われわれは、本プログラムの立案、評価を行うとともに、学生諸君の質問に応じ、適宜アドバイスをいたしますので、遠慮無くご連絡ください。

### ■医学科教育センター担当スタッフ

佐田 遼太 専任教員・助教  
河盛 段 准教授(医学部附属病院 卒後教育開発センター)  
渡部 健二 教授・医学科教育センター長

### ■問い合わせ先

医学科教育センター(最先端医療イノベーションセンター棟・2階)  
TEL: 06-6210-8223  
E-mail: [st@edu.med.osaka-u.ac.jp](mailto:st@edu.med.osaka-u.ac.jp)

## 目的

医学科の学生諸君に対して、早期から基礎医学研究に参加する特別教育プログラムを実施することで、世界をリードする研究能力と国際的視野を兼ね備えた医学研究者を養成することを目指しています。

## 概要

・本プログラムの特徴:従来の医学科のカリキュラムはそのまま受講し、その時間外を利用して基礎医学研究を実践するプログラムです。いわゆる放課後の課外活動に例えることができます。「鉄は熱いうちに打て」という格言のように、将来の研究者を目指す気概にあふれた若い諸君にぜひ挑戦して欲しいと願っています。われわれも、その期待に応えるべく最大限のサポートをします。

・一般医学生のカリキュラムとの違い:従来、医学生は医学部を卒業後、まず初期および後期臨床研修に参加し、専門医資格を所得した後、本格的な研究生生活に入るコースが一般的でした。この場合、研究を開始する時期が卒後5～8年と遅れてしまいます。そこで将来の研究者を目指す場合、学生時代から医学教育と平行して本格的な研究生生活を体験し、研究者としての基本的能力を修得することにより、その後の研究生生活でいち早いスタートを切ることが出来ると考えます。

・開始時期:本プログラムは1年次より開始され、6年次終了までの6年一貫のプログラムです。1年次前期は医学科の正規カリキュラム「基礎医学体験実習」として全員が研究紹介や基礎医学研究の体験実習に参加します。基礎医学体験実習後、1年次後期から希望者は「学生研究員コース」に参加し、実際の基礎医学研究を体験します。3年次前期以降、選考のうえ「MD研究教育プログラム」を開始し、研究室配属のうえ本格的な研究が開始となります。

・参加施設:医学科基礎医学系教室を中心に、免疫学フロンティア研究センター、微生物病研究所、生命機能研究科、蛋白質研究所などの研究施設での研究が可能となります。

・参加人数(1年次後期以降):特に制限はもうけません。

・選考時期:「学生研究員コース」は1年次後期から開始となります。「MD研究者育成プログラム」は3年次前期開始時となりますが、希望者には3年次基礎医学講座配属終了後からの参加も可能とします。「学生研究員コース」と「MD研究者育成プログラム」の相互移行については節目ごとに可能です。

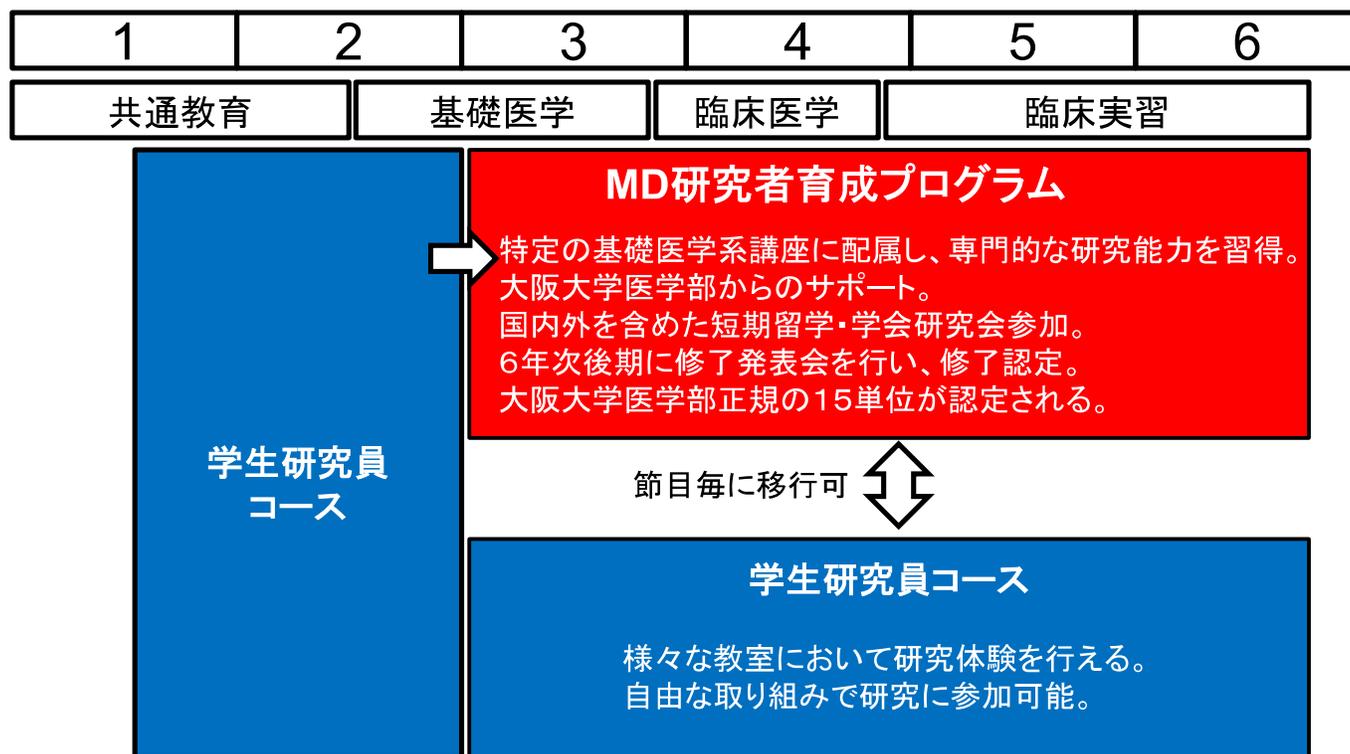
・MD研究者育成プログラム選考基準:基礎医学研究における素養、1年次～2年次における研究参加状況、および面接により決定します。3年次では基礎医学講座配属における研究姿勢も重要な判定要素となります。

・選考後のプログラム:「学生研究員コース」では、基礎医学教室等で医学研究に参加し、研究の楽しさを体験します。「MD研究者育成プログラム」では特定の基礎医学教室または研究施設に所属し、研究手法、論理的思考能力、情報収集能力、プレゼンテーションやディスカッション能力など、研究者としての能力を養います。また、学会発表や大学間交流事業、海外留学も積極的に奨励しサポートします。6年次には修了発表を行います。

・卒業後の進路:卒業後は早期に基礎医学系博士課程大学院に進学することを推奨します。学位(医学博士)取得には通常4年間を要しますが、本プログラムの参加者は3年間での学位取得を目指します。

・単位認定:本プログラムを修了すると選択単位(18単位)が与えられます。

## 「MD研究者育成プログラム」と「学生研究員コース」について



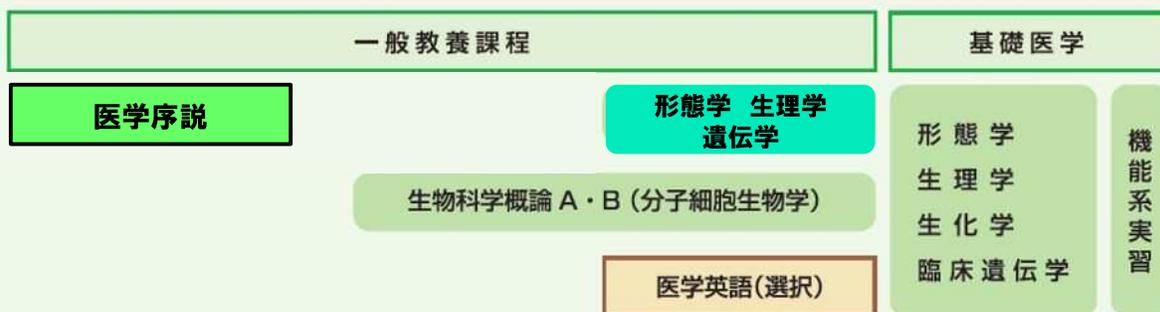
・「学生研究員コース」は「基礎医学体験実習」終了後、1年次後期より参加可能です。本コースでは、医学科基礎医学系教室を中心に、様々な研究室へ自由に参加し、研究見学・研究体験を行います。

・「MD研究者育成プログラム」は、2年次後期に行われる選考を経て、3年次前期より開始されます。本プログラムでは、特定の基礎医学教室または研究施設に所属し、研究者としての能力を本格的に養います。また、学会発表や大学間交流事業、海外留学も積極的に奨励しサポートします。  
本プログラム参加者に対しては大阪大学医学部より手厚い研究支援が行われます。6年次後期の修了発表会における研究成果の発表をもって、正規の単位が認定されます。

・研究への取り組みに応じて、「学生研究員コース」と「MD研究者育成プログラム」の間で定期的に移行が可能です。

## 「MD研究者育成プログラム」の流れ 1～2年次

### 医学科共通カリキュラム



### MD研究者育成プログラム



学年

1

2

3

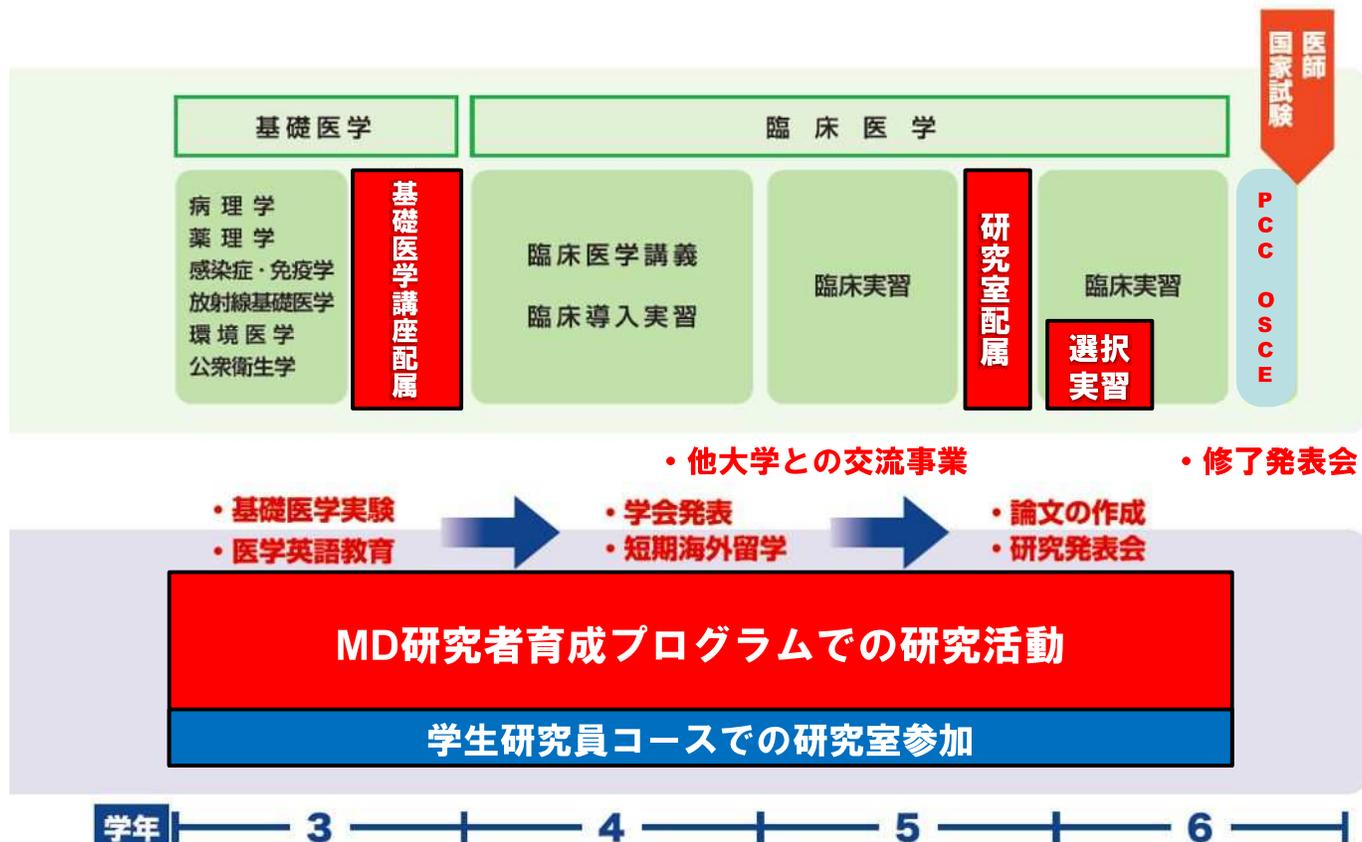
・1年次前期の「基礎医学体験実習」では、まず基礎医学系各講座が最新の研究内容などを紹介します。ここでは、生命現象の多様さ、医学研究のおもしろさ、医学研究への姿勢、長年の基礎研究がいかに先進医療に貢献してきたか、大阪大学医学部でどのようにして画期的な研究成果が生まれたかなどを感じ取って欲しいと思います。講義にひきつづき、基礎医学講座における実際の医学研究を見学します。複数の研究室を見学しますので、直接研究室の雰囲気を感じ取ってください。

1年次後期からは「学生研究員コース」で、希望する研究室での研究体験を開始します。2年次後期に、「MD研究者育成プログラム」参加者を選考し、配属する基礎医学系教室を決定します。

・医学序説は、医学科の正規のカリキュラムですが、MD研究者育成プログラムでも重要な位置を占めています。以前より本講義は、医学部入学直後の学生諸君の医学への関心を高めてもらうことを目的として開講してきました。大阪大学医学部の大先輩の先生方の特別講義と、現役教授による最新の臨床的話題を中心とした講義を実施しています。ここでも医学を学ぶことの意義、研究のおもしろさなどをぜひ実感してください。

・3年次前期開始時より、本プログラムにのっとり基礎医学研究を本格的に開始します。実際に各研究室で研究に参加し、研究手法、論理的思考能力、プレゼンテーションやディスカッション能力を養います。医学英語を修得する機会を設け、学会発表や短期の海外留学も積極的にバックアップします。

## 「MD研究者育成プログラム」の流れ 3～6年次



・「MD研究者育成プログラム」参加者を対象とした研究発表会を定期的を開催します。積極的に出席し、ディスカッションを通じて様々な領域の研究に触れてください。また、同じく基礎医学研究を志す他大学の学生との交流事業にも参加します。研究成果がまとまった段階で論文として発表し、研究者としての第一歩を歩み始めることとなります。

・本プログラムは正規の授業や実習と併行して行うため、まとまった研究の時間をとることが難しい場合もありますが、指導者と相談して綿密な研究計画を立て、正規の授業・実習終了後の時間、週末や祝日、休暇期間を有効に利用してください。また正規のカリキュラムとして、3年次後期に3ヶ月間の基礎医学講座配属、5年次後期に2ヶ月間の研究室配属、6年次前期に3ヶ月間の選択実習を配置しています。この期間中は研究に専念できる期間であり、ぜひ有効に利用してください。

### 卒業後の進路

- ・ 医師国家試験を受験し医師免許を取得した後は、卒業後早期に博士課程大学院への進学を推奨します。大阪大学医学部付属病院での初期臨床研修と平行して、博士課程に参加出来るカリキュラム等、ご案内します。
- ・ 本プログラム修了者は、博士課程入学試験(4月入学)を受験する際、語学(英語)試験免除制度を利用することができます。詳しくは、受験時の募集要項で確認してください。
- ・ 通常4年を要する博士課程を3年で修了し、学位(医学博士)を取得することを目指します。
- ・ 大学院修了後は、臨床に従事するか、引き続き研究を続行するかを選択することができます。